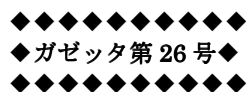


# メールマガジン「ガゼッタ」まとめ(6)

第 26 号～第 30 号 (2013 年 5 月 1 日～6 月 15 日配信)

配信した「ガゼッタ」No.26-30 のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdf にしました。



◆ガゼッタ第 26 号◆

ガゼッタ第 26 号をお届けします。

ゴールデンウィーク、みなさまのようにお過ごしでしょうか？ 筆者は論文の締切で家に引きこもり…連休中に二期会《マクベス》を観に行くのが唯一の娯楽です。

本号は、5 月 3 日深夜放送の TV 番組のお知らせも兼ね、いつもの 5 日から予定を早めて 1 日に配信します。なお、多忙につき連載はお休みとし、ロッシーニの新譜 1 点の紹介と二つのテレビ放送の告知のみとさせていただきます。5 月 12 日の例会案内はこちらをご覧ください。<http://societarossiniana.jp/meeting.html>

## ▼ロッシーニ《小ミサ・ソレムニス (小荘厳ミサ曲)》の新譜発売！▼

◎Rossini: Petite Messe solennelle

ロッシーニ：《小ミサ・ソレムニス (小荘厳ミサ曲)》

アントーニオ・パッパーノ指揮 サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団 & 合唱団 マリーナ・レベカ (S)、サラ・ミンガルド (C)、フランチェスコ・メーリ (T)、アレックス・エスポージト (B-Br)

録音：2012 年 11 月 ローマ [EMI TOCE-90255] (国内盤 Hi Quality CD2 枚組)  
[EMI 4167422] (海外盤 CD2 枚組)



近年ロッシーニ作品の録音に力を注いでいる指揮者パッパーノ。2010 年録音 (2011 年発売) の《ギヨーム・テル》に続いて 2012 年に録音したのがこの《小ミサ・ソレムニス (小荘厳ミサ曲)》管弦楽伴奏ヴァージョンです。

この作品は今年 1 月に東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会でも取り上げられ、ロッシーニ・ファンには馴染みがあり、数々の CD に加えてシャイー指揮の 2008 年演奏会ライブ DVD (Euroarts 2057428 海外盤) の名演もあります。今回のパッパーノ指揮による録音も、なかなか聴き応えのある演奏です。

ソリストのレベカ、メーリ、エスポージトはペーザロの ROF でも活躍するメンバーで、これにコントラルトのサラ・ミンガルドを加えたところがミソです。ミンガルドはバロック物に定評がありますが、芳醇で深みのある低声と豊かな表現力を備えており、その意味では大正解の選択と言えます。テノールのメーリはいつもながら力強い発声歌唱と柔らかな弱声が巧み、エスポージトは劇的な表現が出色。レベカの声と歌唱の魅力も「クルチフィクス」と「オ・サルタリス」(CD1-10 と CD2-3) に全開で、「熟したな～、巧くなったな～」と感心します。

終曲「アニュス・デイ」はコントラルト最大の聴かせどころ。ミンガルドの声の響きと歌い回しは予想どおり見事で、美しい低音に魅せられます。でもどこか感銘が薄いとすれば、その原因は指揮者パッパーノにあります。パッパーノは全体を早い速度で牽引するのですが、テンポの急緩変化に乏しくやや即物的。「クオオニウム」(CD1-7) の伴奏と続く「クム・サンクト」、そして終曲など、もうちょっとどうにかならんかなあ～とってしまいます。録音の随所に、やや雑音めいた不自然な音が混入していることにも違和感があります(明確に特定しえないのですが、不必要に拾われている気がします。パッパーノの息づかいもそう。1 曲目の「キリエ」からそう感じ、その後も折にふれて気になります)。

ちなみに国内盤の定価 3800 円に対して海外盤は 2000 円以下。筆者は迷わず海外盤を購入しました (Amazon から半額の 1922 円…実際の請求は 1660 円でした！ 国内盤は Hi Quality CD とうたっていますが…。びっくりしたのは Amazon 中古に約 20 万円という異常な価格で出品されていること。新譜なのに！)。

オペラと違って地味なところもある作品ですが、晩年のロッシーニの斬新な管弦楽法による編曲も聴きどころ。その点でもこの新録音はお薦めです。

## ▼テレビ朝日「タモリ倶楽部」(5月3日深夜) にロッシーニのピアノ曲！？▼

こういう仕事をしていると、テレビ番組の制作会社からの問い合わせも珍しくありません。一番驚いたのは「ロッシーニの身長と体重を教えてください」というもので、「ぼくの知る限り正確な記録はありません。勝手な想像ですが、身長は 165cm 前後、体重は一番多い時で 130 キロと思いますが、晩年は 120 キロかそれよりちょっと少ない程度でしょう」と答えました。でもなぜ身長と体重を？と疑問に思っ問いかけると、「健康番組の収録用に、ロッシーニの等身大パネルか人形を作ろうと思ひまして」との返事。健康番組でロッシーニ…それって「美食してるとこんなメタボになります」ってことかいな！…とちょっと凹みました。









ガゼッタ第 29 号をお届けします。

本号は 6 月 2 日の例会御礼、5 月にロンドンで観劇した《湖の女》の感想、バルトリの新譜《ノルマ》の紹介です。オペラの日本初演に関する連載は、当分お休みさせていただきます。

なお、7 月の例会「《ギョーム・テル》予習会 (ROF 映像鑑賞会)」の詳細は、近日中に HP で告知いたします。

### ▼6 月 2 日例会の来場御礼▼

去る 6 月 2 日、三茶しゃれなあと集会室にて、講師に長木誠司さんをお迎えして日本ロッシーニ協会例会「演劇としてのオペラに投影された現代の政治と社会」を開催しました。当日の出席者は 35 名。《エジプトのモゼ》のヴィック演出を手掛かりに現代オペラの諸相を、「20 世紀オペラのユダヤ人問題」「ナチズムとオペラ」「オペラに描かれる戦争と反戦」「革命と悲惨」「政治史と CNN オペラ」「オペラに描かれる社会問題」に区分し、該当作品の特色を上演映像を用いて解説していただきました。

ロッシーニ作品の読み替え演出を理解するうえで、現代オペラの政治性や社会問題との関連を知ることが重要であると再認識できました。この場をお借りして、長木先生と出席いただきました皆さまに御礼申し上げます。

### ▼ロイヤル・オペラ《湖の女》の感想▼

5 月 17 日、ロンドンのコヴェントガーデン王立歌劇場にてロイヤル・オペラ公演《湖の女》を観劇しました。これはパリのオペラ座 (ガルニエ。2010 年)、ミラーノのスカラ座 (2011 年)、ロンドンのロイヤル・オペラ (2013 年) による共同制作で、主役歌手はジャコモ 5 世のフアン・ディエゴ・フローレス、エレーナのジョイス・ディドナート、マルコム・ダニエラ・バルチェッローナが共通しています。とはいえオペラ座とスカラ座の演出家がルイス・パスクワル、ロイヤル・オペラの演出家がジョン・フルジェイムスと異なり、指揮者も最初の二つがロベルト・アッパード、ロイヤル・オペラがミケーレ・マリオッティでした。

筆者は最初に 2010 年 6 月 24 日のパリ・オペラ座公演を観ましたが、この日は舞台関係のストライキで装置や舞台転換が無く、衣装付きセミステージ上演になってしまいました。でも知人によれば、「ストライキの日と別な日を観劇したけれど、もともとセミステージ風の舞台だから印象はさほど変わらず、歌手たちの出来はストライキの日の方が良かった」とのこと。「自分たちが観客を満足させなければ」との 3 人の主役歌手の意気込みは、筆者にもひしひしと伝わり、観客も彼らの健闘にさかんな拍手と喝采を送りました。

演出がフルジェイムスに替わったロイヤル・オペラのプロダクションは初日 (5 月 17 日) を観ました。舞台に関してなんの先入観もなしに上演に臨みましたが、のっけから舞台中央のガラスケースにディドナートがいたり、「この人誰やねん」みたいな初老の人物がうろうろして戸惑いましたが、すぐにこの人物が原作者ウォルター・スコットの分身と気づきました。衣装もスコットの肖像画と瓜二つ。そこで「初老になったスコットが『湖上の美人』の物語と人物を蘇らせ、このドラマを自分で再現する設定」と理解しました。

「その着想や良し」と思いましたが、問題は舞台転換ごとの「どっかで観たことあるなあ〜」という既視感です。第 1 幕の途中で舞台中央に現れる回転式の二重らせん階段は ROF 《マティルデ・ディ・シャブラン》の装置の縮小、第 2 幕の屹立する抽象的な大木の森も「良くあるよね、この手の森……どこかの《ランメルモールのルチア》だったかな〜」。劇の人物が長方形のガラスケースに収まる幕切れも、どこかで観た気がしました。他にも反乱軍の高地人をことさら野蛮に描いたり、第 2 幕冒頭に登場したフローレスがすでにジャコモ 5 世の衣装だったりします (「そこはウベルトに変装だろ!」とツッコミを入れました)。

初日だからでしょうか、ディドナートは声をセーブした感じで、アリア・フィナーレに至ってその実力を遺憾なく発揮しました。フローレスも安全運転でいつもの圧倒的印象はなく、破綻なく初日をクリヤーした感じです。バルチェッローナは最初から絶好調で、第 2 幕アリアの超絶技巧が喝采を浴びました。ロドリゴ役は予告されたコリン・リーではなく、マイケル・スパイレスが代役を務めました。彼は昨年 ROF の《バビロニアのチーロ》でバルダッサレを歌ったアメリカ人バリテノーレで、低音域はバリトンで高音域にファルセットを駆使します。フローレスとの声の対比もあり、個人的にはこのキャスト変更は大正解でした。

困ったのは管弦楽が精彩を欠いたこと。前日観たヴェルディ《ドン・カルロ》(パッパーノ指揮)とは異なり、《湖の女》では奏者の技量もろくに判るのです。指揮者マリオッティは気が弱そうなボンボンで、オケをちゃんと統率できぬまま初日を迎えたという感じ。加えて舞台上のバンドが思い切り下手くそ……とくに一番目立つクラリネットがひどく、わざと下手くそに吹いているのかと思いました……ほとんど「チャルメラ吹き」(笑)。合唱も練習不足みたいにバラバラです。ソリストはともあれ他はいいとこなし、との結果に終わりました。カーテンコールの演出家にブー! を叫んだのは筆者だけではなく、あちこちから「ブー!」が飛び交っていました。

舞台写真の幾つかはロイヤル・オペラのサイトに載っています。第 1 幕冒頭はこちら。

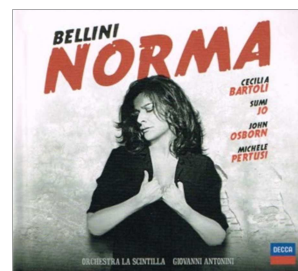
<http://www.roh.org.uk/news/opera-essentials-la-donna-del-lago>

### ▼お薦め新譜：バルトリの《ノルマ》新録音!▼

前号にザルツブルクで観たバルトリ主演《ノルマ》について記しましたが、これに合わせてリリースされた新譜を紹介しておきます。

©Bellini: Norma

ベッリーニ：歌劇《ノルマ》全曲  
ジョヴァンニ・アントニーニ指揮ラ・シンティツァ管弦楽団、International Chamber Vocalists  
チェチーリア・バルトリ（ノルマ）、スミ・ジョー（アダルジーザ）、ジョン・オズボーン（ポッリオーネ）、オロヴェーゾ（ミケーレ・ペルトゥージ）ほか  
録音：2011年4月～2013年1月  
Decca 4783517（海外盤 CD2 枚組） 註：国内盤は後日発売予定。

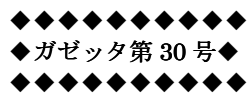


この録音とザルトツブルク上演のキャスト異同はアダルジーザ役と合唱団のみ。ノルマがメゾソプラノでアダルジーザがソプラノという逆転に違和感をおぼえる人もいると思いますが、これはこれでとてつもなく素晴らしい演奏、まさに 21 世紀ならではの《ノルマ》です。使用エディションはマウリツィオ・ピオンディ&リッカルド・ミナージ共編の批判校訂版で、ベースになっているマウリツィオ・ピオンディ校訂のエディションは 2001 年にパルマのレージョ劇場で使われました（上演 DVD は TDK から発売済み。伴奏はファービオ・ピオンディ指揮エウローパ・ガランテ）。その意義を知る筆者には新味がありませんが、2001 年パルマのそれがベッリーニの自筆楽譜を反映して〈清らかな女神（Casta Diva）〉を従来より 1 音高いト長調ヴァージョンで演奏したのに対し……それゆえノルマをソプラノのジューン・アンダーソン、アダルジーザをメゾソプラノのダニエラ・バルチェッローナが歌っている……バルトリはヘ長調で歌っています（〈清らかな女神〉には異稿があり、ヘ長調ヴァージョンは初演歌手ジュディッタ・パスタのための変更と推測されています）。

ベッリーニは《ノルマ》のために多数の異稿とスケッチを書き、批判校訂版が未出版の現状ではバルトリの楽譜選択の詳細とその根拠は不明です（註：ブックレットに掲載された 2 人の校訂者の対話も従来版との違いを簡単に述べただけです）。音楽学的な関心を満たすには正式な全集版の出版を待つほかなく、ここはバルトリの録音を新たな演奏解釈として楽しみましょう。その演奏は現在望みうる最高水準にあり、2001 年パルマ上演に比して遥かに「進化」しています。

こうしたピリオド楽器によるベッリーニの演奏を聴くと、ロッシーニも同様のアプローチをすべきではないか、と思う人も多いはず。これについては次号で紹介する《ラ・チェネレントラ》の新譜（2007 年グランドボーン歌劇場上演ライブ CD）と絡め、あらためてお話させていただきます。

（2013 年 6 月 5 日 水谷彰良）



#### ◆ガゼッタ第 30 号◆

ガゼッタ第 30 号をお届けします。

本号は、協会ツイッター開始のお知らせ、夏のツアー宣伝、新譜《ラ・チェネレントラ》とシー・イージェ出演コンサートの紹介です。

7 月 15 日の例会案内はこちらをご覧ください。<http://societarossiniana.jp/>

#### ▼日本ロッシーニ協会ツイッター開始！▼

いまやツイッターが世の中を動かす時代。「日本ロッシーニ協会でもツイッター始めませんか？」との HP 管理人さんの提案を受け、「やりましょう。でもぼくは初心者だからすべてお任せしますね」と答えたら、あっという間に作ってくれました（6 月 8 日開始）。<http://www.twitter.com/JapanRossini>

筆者も遅ればせながらツイッターに初登録しました。皆さんもフォロワーになってはいかが？

#### ▼ROF を含む郵船トラベルツアー、まだ空席あり！▼

筆者が講師として同行する海外オペラツアーを、5 年前（2008 年）から郵船トラベルで行っています。今年 5 月のそれはあっという間に満席のため宣伝を控えましたが、8 月に予定する「イタリア夏の音楽祭&トスカーナの世界遺産めぐり 10 日間（8 月 7 日～16 日）」にはまだ数名分の空席があります。

今回のプログラムはブッチーニ音楽祭《トゥーランドット》、マチェラータ音楽祭《イル・トロヴァトーレ》、ペーザロのロッシーニ音楽祭（ROF）《ギョーム・テル》《なりゆき泥棒》《アルジェのイタリア女》の 5 演目です。オプションで《ギョーム・テル》の 2 日目も鑑賞可能。トスカーナの世界遺産の観光と宿泊もセットにした贅沢な旅にご一緒しませんか？

ROF チケットはすでに完売。ROF の初心者、なんととしてでもフローレス出演《ギョーム・テル》を観たい方にお勧めです。締め切り間近！ 詳細は PDF パンフレットをご覧ください。

[http://www.ytk.co.jp/music/0807\\_2013/0807\\_2013.pdf](http://www.ytk.co.jp/music/0807_2013/0807_2013.pdf)

#### ▼新譜：ロッシーニ《ラ・チェネレントラ》CD 発売！▼

◎Rossini: La Cenerentola (Glyndebourne 2007)

ロッシーニ：歌劇《ラ・チェネレントラ》2007年グラインドボーン・ライブ

ディミトリ・ユロフスキ指揮エイジ・オブ・インライトウメント管弦楽団、グラインドボーン合唱団 ラクセラ・シーラン (S) ルクサンドラ・ドノーセ (Ms) マキシム・ミロノフ (T) アレッサンドロ・コルベッリ (Br) ピエトロ・スパニョーリ (Br) ウンベルト・キオンモ (B・Br) ほか  
[Glyndebourne GFOCD018] (CD2枚組。海外盤)



「グラインドボーン音楽祭の《ラ・チェネレントラ》なら、DVD持っているよ」という方が多いでしょう。でもDVDは2005年の上演映像。今回発売されたのは2007年上演のライブ録音CDです。

「ユロフスキの指揮、ドノーセのアンジェリーナとミロノフのドン・ラミーロなら同じじゃない」と言うなかれ。オーケストラがピリオド楽器のエイジ・オブ・インライトウメントになり、3人の男声低声歌手の変更によりグレードアップしているのです。前号に記したバルトリの《ノルマ》もそうですが、ピリオド楽器の使用で音楽の印象も全然違います。レチタティーヴォ・セッコの伴奏もフォルテピアノ、チェロ、コントラバスのアンサンブルですから、音楽に広がり生まれます。

この演奏、ユロフスキのテンポが非常に速く、刺激的すぎる場所もありますが、ピリオド楽器だから超モダンな演奏にもなるのです。果敢に応える歌手たちも立派。とりわけマニーフィコ役のコルベッリとダンディーニ役のスパニョーリが抜群のアジリタで卓抜な歌唱を繰り広げ、主役のドノーセとミロノフがかすんでしまうほど。とはいえミロノフも成長して声に力強さが加わり、第2幕のアリアのオプションハイDもぼっかり決めてます。

音の分離など音質面でも優れた録音で、観客の爆笑から舞台の楽しさが伝わってきます。AmazonやHMVのサイトでは発売日が6月20日。海外盤のため価格はサイトによって異なり、複数見比べての注文をお薦めします。

▼東邦音楽大学 創立75周年記念特別演奏会にシー・イージェ出演！▼

ロッシーニ・ファンなら中国生まれの若きテノール、シー・イージェをご存知ですね。ROFでの活躍はもちろん、2010年7月の東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会《ギョーム・テル》ハイライト（ゼッダ指揮）、2012年7月の日本デビュー・リサイタルでも素晴らしい歌唱を繰り広げました。筆者の執筆したデビュー・リサイタル推薦文とプロフィールはこちら。<http://www.tokyopromusica.jp/concert/vijie.html>

今回は「東邦音楽大学創立75周年記念特別演奏会」のための来日で、期日と場所は次のとおり。

6月24日（月） 18：30開演、東邦音楽大学グランツザール

6月25日（火） 19：00開演、めぐろパーシモンホール（大ホール）

シー・イージェは第1部に出演してロッシーニ、グノー、チレーア、ブッチーニのアリアを歌い、第2部は天満敦子さんのヴァイオリン独奏でブルッフのヴァイオリン協奏曲その他が演奏されます（指揮：末廣 誠、管弦楽：東邦音楽大学管弦楽団）。

プログラムと詳細は東邦音楽大学のサイトをご覧ください。

<http://www.toho-music.ac.jp/college/news/2013/06/24/2093.html>

(2013年6月15日 水谷彰良)

★HP管理人より★

HPに初版・初期楽譜など資料の追加が続いています。メルマガのまとめ（第16号～20号）と（第21号～25号）もアップしました。詳細は、HPトップでご確認ください。<http://societarossiniana.jp>

また、前述のツイッターですが、HPトップの右下にも張り付けてありますので、ツイッターのアカウントがなくてもフォロワーにならなくても読むことができます。よろしく！